

総合評価方式の評価

総合評価方式を評価する視点

総合評価方式は、**価格のみ**の競争でなく**技術力**のある企業を評価し、**より良い工事目的物を完成させることを目的**としているので、**入札段階**と**竣工段階**で評価する。

入札段階の評価

【傾向】

- ▷ 平成29年度試行件数は、合併建設事業の終了、総合評価方式適用対象工事の減少により、大幅に減少した。
- ▷ 平成25年度以降は、技術点1位または価格点1位が落札する割合は概ね65%以上が続いている。同様に技術・価格点共に1位である落札者の割合は5年連続40%以上で推移している。

【考察】

- ▷ 技術点、価格点とも、ほぼ同じ比重で落札に反映されている。

竣工段階の評価

【傾向】

前年度と比較して、総合評価方式を除く一般競争入札(通常)は概ね同様の平均点であった。総合評価方式による平均点は多少下がったものの依然高い水準を維持している。

【考察】

- ▷ 総合評価方式では、**品質の高い工事**が行われている。

まとめ

総合評価方式は、**価格のみ**評価する一般競争入札と比べ

- ・ 技術力を持ち合わせた会社との契約
- ・ 質の高い工事目的物の完成

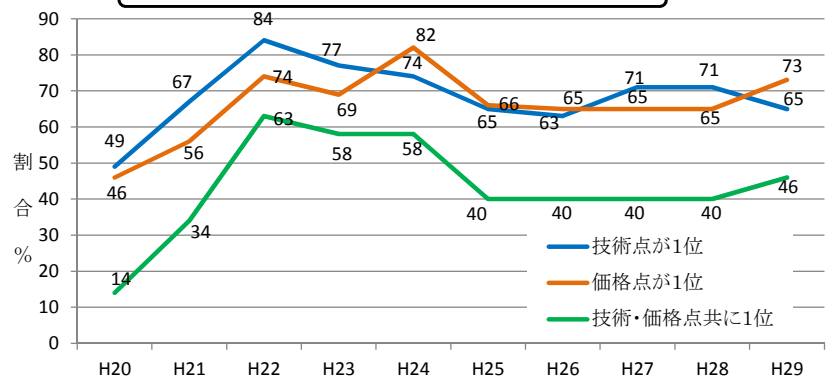
という目的に対して、一定の効果が出ており、**工事の品質向上につながっている。**

試行件数

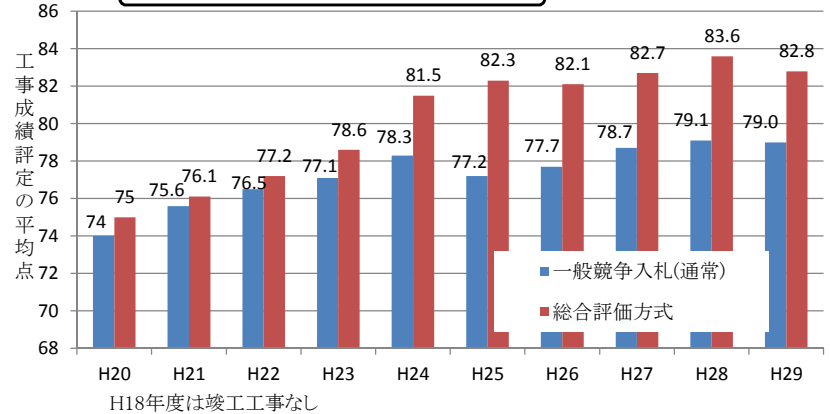
年度	件数
H18・19	14件
H20	137件
H21	115件
H22	125件
H23	275件
H24	121件
H25	118件
H26	115件
H27	78件
H28	98件
H29	53件
合計	1,249件

※件数には、不調、入札中止など試行した全ての案件数を含む

技術・価格点別落札者の推移 (過去10ヶ年度)



工事成績の推移 (過去10ヶ年度)



■ 平成30年度の主な改正点

- ▷ 建設工事の総合評価方式入札に、低入札価格調査制度を導入